



PRO SOUND誌 2010年12月号

**PROSOUND**

**TECHINICAL HANDS ON REPORT**

**ヘッドウォーン・マイクロフォン**

**Audio-Technica**

**BP892 c W/**

**BP892 c W-TH**

**営業案内**

- スピーカーの近くでも「うるさく無い音」、会場のどこでも「クリアに聞こえる音」、「ハウリングしにくいサウンド」。コンパクトで高品位、明瞭度の高い音響-PAを提供いたします。
- ホスピタリティとPro Audio技術のノウハウにより、音響施設の運用サポート・操作・管理をいたします。
- 数多くのAudio Visualの設備の設計・施工経験を元に、使いやすい、明瞭度のすぐれたシステムを構築いたします。

Sound Solution Company

**ロックドア株式会社**

160-0008東京都新宿区三栄町24番地 黒田ビル1F

電話03-5312-6939

FAX03-5312-6988

Http://rockdoor.co.jp

info@rockdoor.co.jp

# TECHNICAL HANDS ON REPORT



BP892cW-TH

## ヘッドウォーン・マイクロフォン

# Audio-Technica

# BP892cW/

# BP892cW-TH

text by 甲田乃次(ロックドア)

### BP892cW/BP892cW-TH仕様

●型式：バックエレクトレット・コンデンサー型 ●指向特性：無指向性 ●周波数特性：20～20,000Hz ●感度 (0dB=1V/Pa、1kHz)：-49dB ●最大入力音圧レベル (1kHz、THD3%)：135dB SPL ●S/N比 (1kHz、1Pa)：63dB ●駆動電源：DC2.5～11V ●消費電流：0.1mA (DC5V供給時) ●仕上げ：BP892cW＝ブラック、BP892cW-TH＝ベージュ ●質量 (マイク本体)：2.6g ●ケーブル長：1.4m ●付属品：ケーブル・クリップ、エレメント・カバー、汗止めリング、ウインドスクリーン×2、キャリングケース ●先バラ仕様：BP892c、BP892c-TH

●価格：BP892cW/BP892cW-TH＝¥39,900 (税込)  
BP892c/BP892c-TH＝¥35,700 (税込)

●問合せ先：(株)オーディオテクニカ プロオーディオ営業部  
プロフェッショナルMI課 TEL (03) 6810-2080  
プロフェッショナルSS課 TEL (03) 6801-2010  
<http://www.audio-technica.co.jp/proaudio/>

今回は、オーディオテクニカより新たに発表されたヘッドウォーン・マイクロフォン「BP892cW-TH」をテストさせて頂いた。

## 小さく、細く、軽い ヘッドウォーン

「2ピースのトランスミッター、ベルトバックあるけどあんまり使ってないね〜」、「今回のプレゼン、本当はヘッドセット使いたいけど、価格が高いし、レンタルもないし、実際、これだったらあと2本、ハンドのワイヤレスを入れといてくれたらな〜」、「誰か良いヘッドセット知らない?」、そんなエンジニア同士の会話をよく聞きます。

そうした中で先日、特定ラジオマイク利用者連盟の総会、展示会のオーディオテクニカ・ブースで「BP892cW-TH」ヘッドウォーン・マイクロフォンを発見。

最初に手に取った印象は、全体的に小さく、細く、軽いなーと感じた。耳掛けタイプで、はじめはアクセサリを付けずに装着したが、大変バランスがよく、こ

れなら長い時間付けていても苦にならない、左右の耳に掛け替えたが違和感もなかった。

また、動きの少ないプレゼンテーションや芝居ものならば、目立たない医療系のテープで軽く押さえてあげるだけでも十分にフィットすると思う。

マイクロフォン・ユニットは直径2.6mmの超小型のユニットである。そのユニット



BP892c-THの装着例

をマウントするチューブは大変細く、直径約1mm、一見、力を加えることを躊躇う程であるが、ゆっくりと顎から頬にかけてフィットさせ微調整してほしい。

## ハウリングに強い

音を出してまず驚いたのは、ハウリングに強いことで、無指向性のユニットなのになぜ?その秘密は2.6mmというとても小さなユニット故に収音特性を示すポーラパターンも大変小さく、きれいな球体を描くとのこと。

10年近く前だが、当時担当していた海外の大手メーカーのプロダクトで新製品として発表されたヘッドセットが直径5mmのユニットで無指向性で収音特性は悪くなかったが、PAではハウリングマージンを稼ぐのに苦労した。その後、単一指向性のユニットのバージョンも発表されたが、取り付け角度が唇に対してスクエアで吹かれ易いところもあった。

最新の超小型ユニットの収音サイズは的確な大きさに「BP892cW」は吹かれにも強いと感じた(鼻息の荒い方でも、もちろん大丈夫です)。



## デュアル・イヤーマウント

専用のデュアル・イヤーマウントもテストしてみた。耳掛け部分をコイル状に成形したところに取り付けることができ、左右どちらにでも収まる。一番嬉しかったのは、先の海外製品ではないが、ぴったり頭部にフィットしたこと。ひと昔前の海外製品は欧米サイズで全体に作りが大きく苦労した。この可変範囲の対応性は小さなお子さんから、外国の体の大きい方までフィットすると思う。

付属のアクセサリもケーブル・クリップ、エレメント・カバー、汗止めリング、ウインドスクリーン×2、キャリングケースなどが付いている。カラーは2色、ブラックとベージュ。当社チーフの現場アイデアだが、本体ベージュでケーブルが黒はどうでしょうか?目立たないと思いますが商品開発のご担当さんご検討ください。

また、接続ケーブルの端末は、先バラ仕様もありとのこと、他社製品のトランスミッターをお使いの方々にもありがたい配慮である。

最後に、価格的にも、ミュージカルなど本数を必要とするケースでも大変助かると感じた。

## ワイヤレス・システムに最適

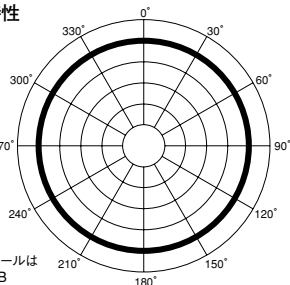
周波数特性に関しても大変フラットで、海外製品に見られる子音を強調した高域特性もなくスムーズに感じられた。

開発の方々も特にMID LOWのフラット感を意識されたとのこと。低域に関しても暴れたところがまったく無い感じで、使用する方の特性でLOWカットを少し入れてあげれば良いと感じた。

周波数特性表では15kHzに若干のピークがあるように見える、ご存知の方も多いと思うが、ワイヤレス・マイクロフォンの技術基準では音声の変調周波数の上限が15kHzに定められていることに由来しているようで、実際、同社のワイヤレス・システム「5000シリーズ」や「9000シリーズ」のトランスミッターでの使用を元に考慮されているようである。

受信機からの出力された音声は高域特性が大変スムーズであった。また、このヘッドウォーン・マイクロフォンをワイヤードで使いたいときには、「AT8539ユニット」(ファンタム)でも使用可能となっている。

指向特性



周波数特性

